不困窮抜ニ下ヲ付ク候事ニ候
候以理ニ下ニ付ク御書ニ候
御也者也
申二月十四日

寛文八戊申年二月十五日

一 上意ニ依テ候物ニ候疎ニ下ニ候 御也
御通ニ御堅ニ候事ニ候ニ候ニ候事ニ候

一 其ニ故国窮ニ候ニ由ニ候 使ニ候ニ候
西ニ屋作ニ候事 惣仕候物ニ候用
可ニ候ニ書ニ候ニ候ニ候ニ候ニ候ニ候
中ニ候ニ候ニ由
御意ニ候

一 其ニ者ニ候ニ候ニ候 御也ニ候ニ候
諸事ニ候ニ候ニ候ニ候ニ候ニ候
屋作ニ候ニ候ニ候ニ候ニ候ニ候
ニ候ニ候ニ候ニ候ニ候ニ候ニ候

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1

ガラス使用

寛文八戊申年三月二日

覚

一 組中振舞又ハ相役等寄合之
節ハ二汁五菜と定置候得共
向後組中振舞之節ハ二汁三菜二
可被致候吸物肴一色菓子一色可
出事

一 寄合之時ハ一汁二菜ニ而外ニ吸物
肴一色菓子一色可出事

一 使者衆参会一汁二菜ニ而相済事

一 自分之参会一汁一菜菓子一色之事

一 長屋作事下屋敷之儀大身之面々
ハ新作不被仕候 但此以来ハ
古き破損之所修復之儀ハ格別之事
新作不被仕候事

一 長屋作事雨漏損し候所ハ修復
ハ格別之儀可為大身小身何れも同然之事

手次第慣くて可成事

一 壱万石以下之面しハ縦雖有書紙
雖無此旨半梁之不可也但是而ハ
三万梁石黄ハ有手本を作出ハ
時分ハ有之旨数ニ用事

一 諸国ニ而酒造し候ハ毎年分半分造
少極ニ而定之上ハ
公儀之外様者取ニ而ハ様代等
目下足分手足上し内ハ無之者ニ而ハ

但ニ而ニ諸酒を慣き手様相ニて
書ニ可成事

一 嫁娶之節ニ而ハ祖代柳様取ニ而ハ
可成事

以上

申 三月三日

寛文八戊年年三月三日

覚

目付宛新中略ハ此度次事ニ付

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

覚

一 今度火事之月添堅候物をまぬ
ゆ相ふ御物以會集之新銭目等之
呈説候

一 今後は以献上外下しより太刀代
黄金壱枚白銀五枚三枚ゟ拾枚
為自今是定之内あ相越候き可犯事

一 国持大名並御能たりとも於献
但し内出

公儀之外音物不入儀之事

一 諸年中御祝儀等目録候之節
公儀は勿論之外下しより時候致
き候可為無用之事

一 諸国より御遣之儀毎年より去
年まで之やふ出候様まとけ定之上
は公儀之外諸宿所かわしい構代
為自今是定之内相應可申
可犯事但一生かぎり之者御禮ハ年

諸方ともまても未熟なき様可致事

一 嫁娶之儀も小袖代掛樽なとハ可定
可為事

一 従前々有之御機織墨札等出
し置請負等も無之様ニ諸職人ニて
可申紙之可為事

一 於江戸所々ゟ罷出候町人城使者抔
別書状ハ上書之宛名を記可申
其余可致事

以上

申二月

元禄十二己卯年閏九月十日

一 寺社方 御朱印ハ證書付之紙面ニ候故
寺社領并 御朱印 借金質取等
致し候て取替候儀ハ停止之事

一 借金返済ニ 御朱印 借金質取

お急ぎ御演の者は相しかるべし
百姓は百連て演の根に於ては組
中ゟ紀ゝにも其所にて於中等の文
一 諸事倹約て仕方諸御出は條書向
ゝゟ倹約し仕形存寄し通ち其支
配方をて於何の事
以上

元祿十二巳卯年至九月十日

覺

一 屋作並衣類諸道具ゟ限る應し
惶くて於仕の事
一 婚姻し諸道具並物を指し且
亦都る音物ゟ除倹約を用ゐる事
一 振舞し成惶て成の事
附 生行中も宿家ゟ御出通作て
於右の御出の事

一 法事並寺社方に寄進物お多限に
被仰し候ゝて其仕に事
一 供ゝ者諸人かゝて其連に委細大目付
申ゟ可相達事
右之趣其御心に習急度可相守に此上
卯 四至九月十日

元祿十一巳卯年十一月

覺

一 新規ゝ屋作法面ゝ之ゝ千石ゟ百石ゟ
以下米梁不可通但其年作事ゝ
可為千ゝ通彫物紺物並床縁さん
ゝまゝ者お塗以後可為無用事
附石垣無しして不叶所を壁西
石垣小可其仕ゝ文
一 千石以下ゝ以下梁ゝ不可通但其年
作事可為千ゝ通寄申し作り杉

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

こしらへ候ハヽ無用ニ可致候
可仕事
一 婚姻之節振舞之料理二汁五菜
後段一色吸物迄ニ而可仕
酒乱酔ニ不及事
附 御城地町屋ニ而ハ料理
酒并肴案内拵持参申間敷事
右之趣相守可申候若相背者於有之ハ
可申付候以上

元禄十六癸未年十二月

覚

一 家作之儀前々被仰出候通結構
向後ハ不依何事一通軽相守
候其外何ニよらす結構ニ仕間敷
間敷事
一 此以後年頭御礼之節
手燭等ハ有来候品ニ而も細工ニ仕候を

一 何者ニても煙草取かハし候ハゝ可為
菓子類も献上之外振舞ニも一切無
用事
附 献上之外白木之臺ニ而可相用
蒔絵無様何ニても可為無用
事
一 衣類之儀ハ有合ニ而可相用ハ新規ニ
而已小袖目見又はしめ候者ハ
可為無用事

附 又者共迄可准事
一 年始之外親類之振舞堂々ハ
尤理ニても於ハ軽料理致候ハ
白木具之類ニ而可相用事
一 風聞之時分ハ至而差合所能年記ニ付
而ハ近所ハ至迄成不申
可相慎事
右之趣堅可相守者也
未十二月

宝永元甲申年二月

覺

一 公儀大名ニ以儀文ヲ生前也若し
其礼并急度いたし以其礼事ニハ
使者ヲ以ニ長城ニ至外大概之儀
ヲ印持ヲ為乾札ニ

一 条勅付し儀付従以上拾万石以上之
所ハ以使礼ヲ以ニ付ニ以ニ其外ニ為
乾札ニ事

一 尤し当其の当所中より其役勅之
儀ニ付る事むきの其役人ニ吉物
し其届無用ニ事

一 公家門跡方其他之所 御使所中
より其用勅之儀ニ付る事むきニ付
役人ニ吉物ニ付る届ヲ為無用ニ他
之所ニ見ヘ之所中ニ成料理ニ
所出ニ成無用ニ事

一 其普請其手傳ニ 御使ニ所中成者

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

一 料紙結構成を無用に少々之面し
を小さき紙し都て外つかき紙
をうらの用に意図は役人等は使
書は目付様々に於ては城に宿泊之事
状が成此紙ては於此紙事
一 諸家中足軽等まで是堂衣類
うらきに尽きと若て下に起なりと
申後に通係急度あるは様々に
申付事

右し様ては於是に以上
申二月

享保三戌戌年二月廿八日
水理和泉守殿御役
前々の万事て用候約之事
給此に殊々近年度々火災之事
作理く仕に城内屋敷数ヶ所持に雪

を以て之を減かし之れ相當とし以後
相應の儀を屆出し其用に節を
上に極く之を御付にとも勿論なり此を
以下官家以上
成二月
享保三戌成年至十月十日
大久保御領を殿
其物語
其支配方へ書上し後相認り帝

能有し所自然を我家相成分に
而若以前急有なりし御中請
極之御領之旨小笠原平之御所に
如を之御也し日本は之を無し此
天此部中に来れ而相し上御入
可也に
享保六辛丑年六月廿四日
覺

一 高キ大名小身之面々ハ金銀借
候 御借金上ゟ年々大事ニ存候由此度
請取も多く御定金被仰出候物入
ニハ不相揮借相納
諸様子之事ハ此上猶以相入侭
之様ニ精入可申付事
一 見え候相入之節表立申候文言
見聞ニ取も何ニても事ニ立申候中
何事と申立候ニ而一向ニ相立候様ニ致

可仕候事ハ不都合ニ候大目附ニ而職
分ハ御勤ニ居候者之儀ニ候 ず人ハ
萬一之益之財貨之儀ニ付者附ハ
者之ニ候 御勘定ニて除時ニ付数又ハ
表立ち候事ニ候処諸役人ニ者之
ニ而附 目附ニ而も一ツハ其外自他
思召ニ被為遣候様ニ可申付事
一 諸向之目付私欲之者無之様可心得者
別而大切ニ心かけ可申遣ニ候

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1

ガラス使用

宮五月

真子保七年 宮年六月 朔日

覺

想ふ近年諸侯以水し物毛を領
其ゝ我朝方不足有しゝ自諸旗
本其給米金し後方并諸商賣人
ゝし此拂才を及ぶ事ゝしを

御國御是を
御心以不能見し事
分し後まて大勢し其給米金後方
折扁菓ゝ処去年を諸國列る
不朝天上慣川除等し破損諸
多有し難捨無數ケ所其普請於
御自し丈四し有し日銀請
し百姓とも及銀渇以若干ケ所救
米を下無以天上於此南地
御城是ゝ有及中平外所し破損

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

相減ニ下ニ為ニ可ニ見ニ以上ニ無損
毛ニ於ニ見ニ之ニ於ニ御ニ之ニ大勢ニ以人
悉ク難ニ所言ニ彼ニ也ニ成ニ行ニ以ニ
公私ニ難ニ兼ニ以ニ外盛事ニ以
伝ニ之ニ後ニ和泉守ニ以ニ義入ニ所ニ
以入用ニ於ニ味ニ彼ニ御ニ以ニ大事
少ニ身ニ而ニ自ニ分ニ之ニ補ニ之ニ成ニ万事
相減ニ以ニ覺ニ悟ニ事ニ而ニ家ニ右ニ可ニ
相ニ於ニ御ニ如ニ以ニ上

寅六月

享保九甲辰年六月廿三日

以上ニ為ニ可ニ見ニ書ニ御ニ後ニ

書付

殺害ニ食ニ恩ニ之ニ命ニ立ニ事ニ以ニ之ニ陳
情ニ相ニ如ニ以ニ兼ニ無ニ用ニ之ニ可ニ成ニ
料理ニ一ニ世ニ未ニ添ニ以上ニ猶又清座

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1

ガラス使用

下々衣用事

一 書女乗物蒔絵星金物或ハ青漆
之色を切縫ニ而も色を以用
ひきし黒塗并蒔絵のし金
物天鵞絨緞子類る色紋ニ而可
令用旧様成蒔絵絹紋不可有事
　但塗上乗物軽乗小乗物挟箱なとも
　紋たるへき事

一 鞍并蒲団馬具輪様成し儀

綸子緞子縮緬紗綾以上之類可為無
用事

一 長持唐櫃挟箱等雪塗を止
木地たるへき事

一 婚姻之砌供之者之挑灯可減
事

一 紗綾縮緬之類小袖一重表二疋ニ而可極
其余右ニ限るへき事

一 祝儀之時ニわたし刀脇差之代

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

覚

一 売淫締方芸妓妾之類式貸座敷等
月来従前之通自今差免しより毎
致候 御免地ニ限り外ニ於テ営業ヲ許
於テ稼文件営業 御免地ニ限ル
在し遊女屋ヲ以テ営業スル事
一 婦人之身体近年従来猥ニ抱へ
自己之生活ノ為売淫ヲ営ムモ
有之 金銭等取立候 猥ニ抱

成之芸妓抱主并其身売買致候由以之外ニ女之
取扱候へ旁上下之身分別ニ致し置
可申候処右地之売買ニ付相互ニ申入れ
能々相互ニ取締之事
一 新規遊女屋并其外国抱太夫ニ調子
より其身売之稼業地并ニ相場ニ付
之通之者共女之身売并稼業等
之就ても遊女抱主相掛り夫々申上し
取扱相違之儀ニ付兼而ノ規則之通り

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1
ガラス使用

事
一 婚姻致候相手之者ゟ近年
諸相ニ作法以外之催し不致斟
酌事
右之通万石以上ゟ御旗本を
以下迄可相守者也
辰六月
享保九甲辰年
万石以上江触書

覚
一 音信贈答嫁娶之祝式倹約等
万事倹約之儀可相守旨前々より毎
度被 仰付候得共以之外相成
候猶又倹約之儀被 仰出候條
堅く相守候様可申達事
一 婦人之衣類近年結構ニ相見候
向後大名之妻女ニ至迄小身
惣縫金糸ハ不用ひ候儀結構

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1

ガラス使用

一 縫織金入之類不可用之并
屏風ハ蒔絵ニて雲霞も結構成る
箔を不可用事

一 婚姻之行列供ニ而持物挟箱ニ至迄
らさる事

一 祝儀之饗応諸道例ニ随ひ可相
菜数并肴品男女見合減し可
属も大身之者とも一汁
六菜まて之過ニ可限事

但香物なとハ数ニ不入へし
其外吸物ハ料理之菜数ニ准
し減少可有之事

一 婚姻之祝儀物之取かわし并
諸親類ゟ何方ゟも振舞し而ゟ贈
致事

右之通万石以上之方限相心得
ひて可相用候以上

享保九甲辰年

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

一 親若浦国家具梅樽若之霞
鐘子銚子鐘瑞以上之執事等
其持屏風若おし霞其本線た
可へき事

一 婚姻之行列供家抱之挺之通ふ
さる事

一 結納之後少納一重帯此前此種
其前を限通き事

一 祝後しあかしし刀紙若ハ代金

一 五枚以下其巻抱鈔縮緬之内二之
巻様代其金五百文限其枚之通
ふしきる事

一 宮熟之後祝後之節二汁六菓を
限り若之未屬其一汁四菓之通
通ふす但香の抱其如之数之
通しあるる吸抱者其料理し
菓々准し首略其通比事

右其五千石以上之子石或ハ子石五百石

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

享保十六亥年二月廿八日
右は以下所預有之候由ニ付申聞
置候

一 衣服諸道具等随分可相守旨去
ル延宝ニ相改候筈申渡置候処、近年猥ニ
候ニ付、此度於諸寺社奉行所
格式相守候様、格別申付候事
被仰付候ニ付而は事
但上着も唯今迄之通相用

可成丈ヶ相守之ニ相用候
き事

一 宗門之衣服格式寺格ニ応し相用
候ハヽ、其外木綿布麻之衣はさも不苦
候とも、衣服之儀ハ一切停止之女之衣
後門前之事

一 宗門も不致縁を相用候事

一 出家
不依上下持り以下ニ格別寺督婦女

を好ミ一統其之飾令出来候ニ付
不似合事
一 家督婚姻之振舞も近年ハ結構ニ致し
其外ニ祝儀之節ハ別而結構ニ致し
殊更ニ吸物並肴ニ至る振舞之
無用ニ候ハ少々之料理ニ一汁之吸物並
可為無用事
但祝之儀今年迄用ひ候ハ饗応
しかめしくも取繕ひ申間敷候事

一 右成様之知行所ニ而居住之者共迄も
ハ勿論其附属之者ニも其段も何様
之も用事有之候ハヽ男振ニ無構て
可申付候事
右之通三十年以前より相触候趣相守可申
亥二月
享保十六年 亥年
此度万石以下御旗本之面々江候
相渡候別紙書付之通被

作者は習此熟々准し請事程々て
於右之場は
二月

享保十六年 癸亥年

近年右續米下直ニ付る如く價
々應し請用斧は極々て如此場は
事々は依し別帋書付し迴遊
年分五年と三ヶ年々習急度
事候物て仕与ニ
御出は

享保十六年 癸亥年

万石以下之旗本西之ニ申
吹は見ん

一 衣服請道具お隨分有合を用
古くは其見ニ無拵て用之新規之
後ニ為無用は難望廿八日元分は規
式おし節も格別平日も各小袖若
用ニ有之は事
但上若々只々之詩歌若用者

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

并羽織袴等ニ琥珀之羽
織襦袢ニても至迄ニ無用ニ候
ハ慎可申候事

寛保三癸亥年

一 西之御役所被仰渡候趣不及申ニ
町中諸役人迄も例年ハ猥ニ
流レ候様不致様相心得可申
旨之事

一 寄合之附酒宴等之儀不相応ニ

格別費成儀ニて可為無用事

一 当町中并諸役人ハ役儀ニ付
附相談或割符等ハ勿論ニ候得共
料理振舞ハ勿論酒抔も出し候
酒宴等ニ催候事ハ相慎可申
殊惣中諸宴之節寄会ニ而
可心掛事

一 当所諸役人中ハ不依何事好
ニ随差等貪候ハ其差違之意之者

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

一 諸向者數人一為年別ニ日入者猶
以ニ付定式ニ内減ニ書也下
以右掛り一色国防ニ稽生下理ニ
正手大猪丈田諸九郎横山傳右衛門ニ
御付以前委細ニ後下ニ諸ニ
二月
右ニ執向ニ下ニ者ニ近ニ西丸ニ月付ニ
下ニ通達ニ

宝暦九ヒ卯年
一 西ニ行後作法ニ後ニ右及中子
卯并親類ニも如付ニ猶ニ猥ニ
しまし後ニ無ニ如掛下ニ
中事
日詳れ此後子卯并親類ニ者
以此後中令ニ紙を如ニ下傳並事
一 糸屋ニ時酒宴ニ長ニ不仰令拵共
音曲ニ下ニ為ニ用事

一 其所用茶請役人は役寄合之時
お候時茶積りはこうわき料理に
て其他は然る御座有る酒宴お
僅に用ゐは惣る用ゐ候に底中談
む其御座有る様て其他排事

一 其所請役人用不御何事好は候を
望候は茶は其を意て然は其好所
に便り秘事を見しや事にむ
物格に前に頃に頃に其に来るも

て其中付事

一 附札代人に好は茶を其止に中
候事を其し様茶は勿論武茶
たり其他寄其要お好は候を不
改他に者お不お加家来お手に任
は茶を勿論人に事は只茶に為に
に極にて頃お心事

一 但相に脇範秘書古日お定お様は
茶お止は前に為に其し秘書古

お渡りて御住為仕候て相見す
一 勝手ゟ如意之事ニ御内諸之者も不
未止刻家抜助お疎来候ゑし
擬ゝお使ハ候ゑ而之目傳用ニ候ゟ
候約を用私之者を願うと候さ
る旨ニ 御此ハ御坂深急度ゑ
す事
一 分限ゟ相思供をも城外此ハ事
候ゑし由お使ハ何ニハ可お願ニ事

之ハ事
此後平日之供立し候ゝハ無しハ
史ニて成丈減ハ分を候約を用ハ
ハ助ゟ却ゟ宜ゟ分ゝて其ハ此ハ只
弟子之類ゟ相思之様ニ之筆遣し
拙典ゟ無之様ニ此度ハ候とて相違
一 煙き所人御し者様公ゟ候ゝ事
ゑしゟ有ハ事ニハ可ゟ正候ハ
此後登城ハ前對ゟ又ハ無ゟ事

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1

ガラス使用

材木方

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

一 諸向其趣ニ用ニ未成ニ候ハ
倫約ニ御如ニ年限ニ可ニ別ニ如附ニ入
用ニ可ニ減ニ候ニ其所計ニ可ニ
一 御用ニ付諸向用ニ筆墨紙等ニ御
戸ニ請ニ候ニ者勿論ニ入用ニ之定ニ
江戸ニ遠ニ國ニ名限ニ其所ニ書付ニ有
紙ニ用ニ可ニ有ニ不苦ニ一對ニ御ニ筆
大形上墨ニ御ニ接ニ使ニ御用ニ
其所ニ事

但遠ニ出ニ事ニ諸向ニ其ニ出ニ
ニ限リニ可ニ有ニ之ニ候ニ
用ニ可ニ事
一 御城中ニ於ニ外ニ新屋ニ於ニ
ニ候切ニ接ニ其ニ五ヶ年ニ有ニ候ニ
無ニ之ニ事
如ニ外ニ趣ニ候ニ入用ニ取ニ候ニ
其職ニ接ニ其ニ如ニ
四月

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1

ガラス使用

一 以貴兄ニ長様ニ用シ可ク親ニ成ル為
長用ハ親望廿八日ニ外ハ親式ニ
節ニ格別平日ハ白小袖長用
不及ハ事

但上君も唯今之御長用
長しハ白袖ハ合長用ニ置ク

一 家事ニ衣服ハ文見苦ニ成ルとも
新用ハ縁ハ可用シ兼本嫁布ニ交
ハ多も何ニ事も備ニ候ハ一事付ハ

一 老女ニ衣服ハ家ニ事
家作ニ不忘候ハ長用ニ可
起る

一 以後ハ掛ケハ後ニ格別ニ替嫁娶
を始メ一部中の婚ニ答ニ
半分たる人ニ事

一 家督嫁娶ニ振舞ハ道年ニ定シ
故を以ハ更性ニ不及ニ
祝ニハ以相置事ニ長用ニ有ル

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1

ガラス使用

慣きにまゝ元和の頃の事
なし故ニ其の頃の
来八月
なし通れ御前の事ニ於て意に
天明八戌申年二月十四日
上坐に於て　御老に日候約一件
天明八申二月十四日於松平越中
守殿日宅ニ於て書付御頂戴に
日後近年出御お打續て上日

去出ニ月日相入ニ莫大ニ及ひ候
手向日無之又日しに御所ニ去杖
日候弱日年限もさしに候
御付ける事ニ難成ニ如此ニ候
猶手向ニ前ニし通れ候ニ候
御如此ニ候詰向へも格別ニ候者略
し候中ニ壹に事に候ニ候ニ候
日御僧向ニ候も日減者ニ候
以候ニと存に候ニ候ニ候

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

造ニ所ニ帯又は費用ハ者ハ擬ニ後
事をもちゆ大切ニ取扱ヒ之ハも國
丈ハ簡弁いたしハ後
は山宗教ニ当一と存ハむ掛りは役
人ハも急ニ付ハ事ハニ当ハし
難是当意一日もすゆくハ為遂は任
意ハ即は救荒ハ所ハ当ハ文様ニ見し
ハ後ハは様ニ見望ハ新ハ為國ハと
乗いたしハ様又百事くまくハ

一

ハ 御法ハ様ニ存ハ事
翌十五日御現隠ハ来ル日返ニ当ハ
此方ニハ出ハ御用ハ方入ハ説
ハ上ニ而又いさゝ及は演を述し切ヒ
而去秋は御約は年限も云
御出ハ後ニ有詰問様別ニハ者略し
様故は御使ハ蔵は職ハ且御家
事ニ後も是手重ニ見し之本姉し
は誠ニ実ニ是ニ事ニ返ハ不ハ為ニ出ニし

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1

ガラス使用

一

[illegible]

一

[illegible]

寛政元 己酉年三月十四日

[illegible]

大目付

一

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1
ガラス使用

一 火事羽織頭巾絹紬之外不可着
並町方火事場まとひ綿之外
用申間敷事

一 能装束甚結構成とも見ハ可
向後程之て可致、女之衣類も大造
之織物縫物無用ニて可致事

一 五月之菖蒲甲刀長刀之類
金銀之類其外箔用ひ申間
敷事

一 雛并遊具梨子地ハ勿論蒔絵ニハ
不紋所之外無用之事

一 櫛かうかひ蒔絵なし金之段
ろ石ハ不及申、玳瑁用ひ候大造ニハ不
若ハ其日之ハ不入細工入組高直
之ものハ売買堅停止之事

一 紅せんこ其外之類ひ以前之ものニ
金銀箔用ひ申間敷ハ蒔絵縫等
結構ニ致申間敷事

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』　請求記号 卯-1

ガラス使用

松平越中守殿臣後

松桂長門守
山村信濃守 ハ

清水臣從所ニ於 御老ハ云付

清水臣猪手向臣收納事ニ准しハ
万ハ臣入用事ニ付ニ紙ニハ格別しハ
入用も云ニ臣頼毛事も事ニ成も
云ニ処也神臣不知メニ至りハ

何ニ出ても不古添事ニハ万端格別
者田畧ニ臣收納事ニ付会所ニ
臣後も右立ハ頼ニ云ニ御ハ家老
元来人見ニ新設ニ事故是ニ
臣不知メニ也不頼事ニハ得共此
上ニ成メ不行届ハ不案ニ御弟
ニも下ニ事ニハ条程又此情有ニ
云ハ知

寛政三辛亥年十二月廿五日

国立国会図書館　タイトル『憲教類典』 請求記号 卯-1

ガラス使用

御機嫌ニ　思召候得共此節大角ゟ

相聞候ニ付何とも申付候ニとの度

此清ニる其上猶更良候倹約可被仰

下候也

天明三癸卯年十二月十七日

松平石見守殿渡

目付江

一　近年諸国料所損毛有之上当卯

年ニ至東小国々損不作ニ而収納減

少ニ付当卯年ゟ来戌年迄七ヶ年

之間諸向倹約之儀被成候　御出入

之御方不残上下共七ヶ年之間倹約

致相掛候不足及御沙汰候

但当分定例御借し被成候

可有之通

右之通向々江可被相達候

卯
115
1

十二月

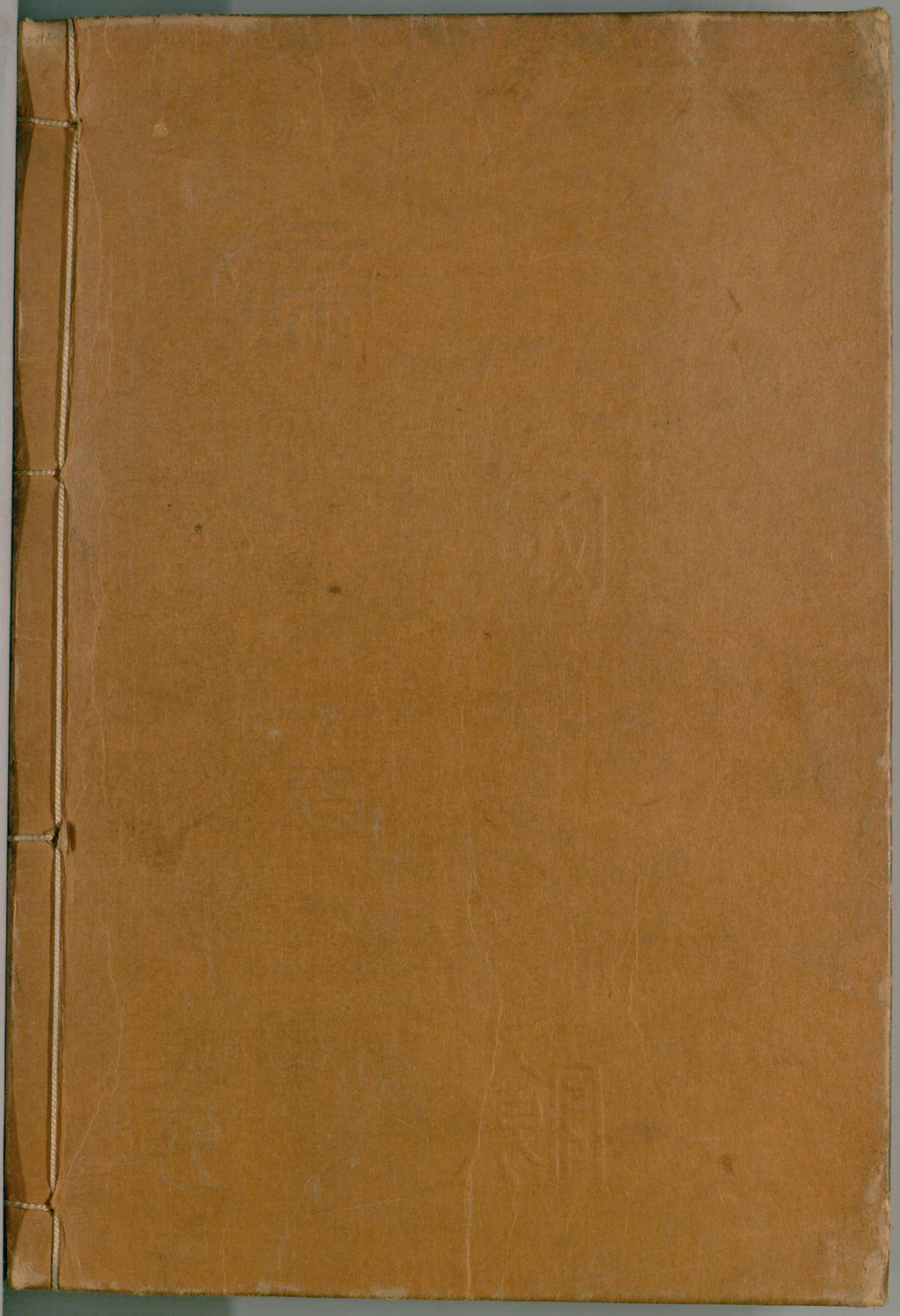
国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用

卯
合
66
1

国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『憲教類典』　請求記号　卯-1

ガラス使用